

- 新病棟の特色～私たちのこだわりレポート～
- 自動吻合器を用いた新しい痔の治療法—PPHについて
- 食に関する健康情報を上手に取り入れましょう
- 糖尿病患者会で「あるこう会」開催
- 「研修医ルーム」がオープン
- 病棟のご案内

【新病棟の特色 ～私たちのこだわりレポート～】



病院再開発委員会
委員長 竹内教授

再開発委員会では、患者さまに最も近い病院職員である看護師の意見をできる限り取り入れ、患者さまにとって少しでも居心地の良い病院になるように努めてきました。また「**患者さまの満足度＝病院職員の満足度**」という考えに基づき、職員が働きやすい環境づくりも心がけており、医療の質として患者さまに還元されることを目指しています。



病棟病室設備WG



藤野看護部長

患者さまがくつろげる空間を演出しました

個室数を増やしたり、6人病室を4人病室へ変更しました。また、病室入り口には、名前の掲示をなくし、扉を開けても室内が見えないようにカーテンで目隠しするなど、プライバシーの保護に努めました。さらに、ご自宅におられるような雰囲気を感じてもらうための患者食堂、ご家族のための家族控室を設けるなどしましたが、満足していただけましたら幸いです。



病院再開発推進室



國友専門職員

患者さま、スタッフともに満足できる病棟をめざして

「心と体を癒す空間」作りを目指して壁、床等の色の調整、病室・スタッフステーションのレイアウト、病室設備等の選定等にWGスタッフをはじめ多くの関係者に協力していただき、夜遅くまで議論したことが思い出されます。患者生体情報モニター、ナースコール、画像配信設備など、スタッフの労力軽減に役立つ設備を多く導入しております。



サイン(院内表示)WG

ゾーンごとにテーマカラーを決めています

本院のサイン計画は「わかりやすく、メリハリよく、安心感を与える」を基本コンセプトとして検討し、外来部門は対話の色の緑、検査部門は理性の色の紫そして病棟部門は安定の色の茶色を基調として構成しました。D病棟の完成により、一部分を皆さんにご利用いただいておりますが、今後再開発が進むたびに新しい部分をご利用いただくこととなります。



山崎医療サービス
課長



安全管理・患者環境 移転渉外WG

病棟移転も設備も安全性を最優先に考えました

移転の際には患者さまにもご協力をいただきましてありがとうございました。新病棟には酸素などの医療ガスの設備が充実しています。工事終了時には病棟責任者立会いのもと、医療ガスの点検をしっかりと行いました。また、緊急時にもすばやく対応できるように、各病棟のわかりやすい所に場所を統一してAED（自動体外式除細動器）を設置しています。



坂口医療安全管理部副部長



ふんごう き 自動吻合器を用いた新しい痔の治療法 — PPHについて

消化器外科 病院教授 遠藤 善裕



PPHとは —

1993年にイタリアで開発された新しい自動吻合器による直腸粘膜脱または内痔核の手術法です。従来の方法では、はさみを使って、肛門部皮膚を切開し、痔核と血管を縛り、血行を止めて切除しますが、PPHは、専用の自動吻合器を用い、痔核上の脱出した直腸粘膜と血管を自動的に一瞬で切除、縫合し、痔核を正常な位置へと吊り上げ、縮小させるものです。ゆるんだ肛門組織を吊り上げて元の位置に戻すことで症状をなくします。

痛みの少ない治療法です —

肛門の下部は非常に敏感なのですが、肛門の上部（直腸側）は痛みを感じません。従来の手術では、傷が肛門の中と皮膚の両方にでき、肛門皮膚にできた傷が術後の痛みの原因となりますが、PPHでは肛門周辺の皮膚には傷ができないため、術後の肛門がきれいで、術後の痛みが小さいのです。

PPHの手術時間は従来の半分程度で、入院期間も短縮され、早期の社会復帰が可能です。副作用・合併症は、従来法と比較し、特に多いわけではありませんが、術後の出血、引っ張られるような痛みなどがみられることがあり、稀な合併症として直腸腔*などの報告もあります。

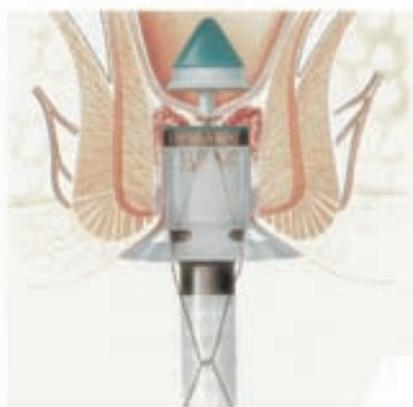
最後に —

痔は、他の動物にはなく、人間が直立歩行をしたこと、便を我慢するようになったことが原因とも言われる文明病で、男女を問わず多くの方が悩んでおられます。本院では平成18年11月に厚生労働省から先進医療として認められ、これまで着実に治療成績を上げてきています。詳しくは消化器外科へお問い合わせください。

吻合器を用いた直腸粘膜脱 又は内痔核手術 (PPH)



用いられる吻合器



粘膜吻合の模式図

(ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
(P.P.H. Surgical Technique) より)

*腔と肛門がトンネルでつながってしまう状態

食に関する健康情報を上手に取り入れましょう

(H19.11.23 公開講座「市民の健康と栄養を考える会」より)

呼吸器内科 助教 長尾 大志



健康情報の甘いワナ

☑ 心当たりはありませんか？「健康情報の甘いワナ」チェック

- テレビで「納豆」が体にいいと聞き、食べるようになった。
- 手軽に努力することなく痩せたいと思う。
- 情報収集が面倒で、インターネットに頼りがちだ。
- 高価な健康食品、よく宣伝をしている健康食品を購入したくなる。

該当の多い人ほど、健康情報の甘いワナにはまる危険性が高いと言えます。情報が溢れる現在、正しい情報、知識を習得し、ワナにかからないようにしましょう。

◇できるだけ分かりやすく書かれた信頼できるメディアから、幅広く情報収集するよう心がけましょう。

◇治療中の患者さまは、主治医とコミュニケーションをとり、正しい知識を習得することも大切です。

糖尿病患者会で「あるこう会」を開催

内分泌代謝内科 活動報告

平成19年11月10日、初秋のさわやかな風のなか滋賀医科大学月輪会では恒例の「あるこう会」を開催しました。軽運動をとりいれることで心身のリフレッシュをはかることを目的に、毎年行っています。

今年は、月輪会員とご家族、医師・看護師・管理栄養師・検査技師・事務職員を含めて計21名の幅広い方々が参加しました。2コースに分かれてそれぞれのチームが紅葉を楽しみつつ、無事に滋賀医科大学へ帰着しました。



★初心者コース（約3.5km）

滋賀医大を出発点に文化ゾーンからふれあい広場一帯をめぐるります。

★健脚コース（約10km）

名神高速道路の上を渡り一里山の瀬田公園体育館をめざし、アップダウンの道を行います。



約2時間のウォーキングの後は、栄養治療部がたてた献立（690Kcal）による昼食会でさらに親睦を深めました。

滋賀医科大学月輪会は、日本糖尿病協会の友の会として発足し現在会員数は48名です。年間を通して「あるこう会」「お食事会」「総会」等の行事を企画し、糖尿病患者の参加を呼びかけて医療、栄養治療の両面からサポートを行っています。



滋賀医科大学月輪会

活動内容	各種行事を通じた糖尿病患者さまの医療、栄養治療の両面からのサポート
入会方法	内分泌代謝内科・腎臓内科外来にある申込用紙にご記入のうえお申し出ください
問い合わせ先	077-548-2223 (内分泌代謝内科医局・月輪会事務局)

つづけよう
きそく正しい生活と
のんびりと散歩
わかちあおう
かいいんさんと
いっしょに

「研修医ルーム」がオープン

卒後臨床研修センター



滋賀医科大学医学部附属病院では、病院内で臨床研修を行う研修医のための環境整備の一環として「研修医ルーム」を新築し、このほど使用を開始しました。

新しく建設した研修医ルームは、病院に隣接した150㎡の1階建てで、室内にはインターネット環境の整ったデスクを人数分配置しています。また仮眠室・更衣室を併設し、その他にも大型テレビや冷蔵庫、電子レンジ、洗面台等を装備したリフレッシュスペースを備えています。

これまで医科大学の卒業生は研修医として卒業後直ちに医局へ所属していましたが、平成16年度から新医師臨床研修制度がスタートし、卒後2年間は卒後臨床研修センターに所属することになりました。平成19年11月現在、本院では65名の研修医が本院の理念を実践できる医師となるべく臨床研修を行っています。みなさまのより一層のご理解とご協力をお願いいたします。



病棟のご案内

医療サービス課 入院係

D病棟の新築工事に引き続き、病院再開発計画の第2段階としてC病棟の改修工事を行っています。平成20年6月までの病棟配置は下のとおりです。工事期間中は騒音・振動などご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

A病棟

6階	母子・女性診療科
5階	小児科・NICU 麻酔科・ペインクリニック科
4階	消化器内科 血液内科
3階	手術部・ICU
2階	(検査部)
1階	(放射線部)

B病棟

6階	耳鼻咽喉科 歯科口腔外科
5階	内分泌代謝内科 腎臓内科 神経内科
4階	呼吸器内科 呼吸器外科
3階	精神科神経科
2階	(リハビリテーション部)
1階	(洗濯部・郵便局)

D病棟

6階	展望レストラン
5階	皮膚科 脳神経外科 眼科
4階	消化器外科 乳腺・一般外科 放射線科
3階	循環器内科 心臓血管外科
2階	整形外科 泌尿器科
1階	

滋賀医科大学医学部附属病院 理念

「信頼と満足を追求する全人的医療」

●理念を実現するための 基本方針

- 患者さま本位の医療を実践します
- 信頼・安心・満足を与える病院を目指します
- あたたかい心で最先端の医療を提供します
- 地域に密着した大学病院を目指します
- 世界に通用する医療人を育成します
- 健全な病院経営を目指します

滋賀医大病院ニュース第17号

編集・発行：滋賀医科大学広報委員会
〒520-2192 大津市瀬田月輪町
TEL: 077(548)2012(企画調整室)

過去の滋賀医大病院ニュース(PDF版)はホームページでご覧いただけます。